

「主張」第8回

「もしも鉄腕アトムが保険代理店（募集人）を始めたら」

2022年にChatGPT（GPT4は司法試験や医師国家試験に合格できる頭脳レベルに達している）の登場により第4次AIブームとなり、シンギュラリティ（人工知能が人間を超える技術的特異点）到来時期が10年以内に早まったといった学説も出ている。また、論文「GPTs are GPTs」では、AIに影響を受けやすい仕事にチャットポット（コールセンター）、リスクアナリスト、商品パーソナライズ、損害鑑定人等々保険業界の業務がならんでおり、保険会社各社も様々な生成AI活用事例が報告されている。

読者のほとんどの方々は手塚治虫のSF漫画「鉄腕アトム」をご存じと思うが、1952年月刊雑誌に連載開始、時代設定が50年後かつ初刊の発売日が4月7日だったということで、2003年4月7日が誕生日であり、「7つの威力」を持ち、人の心をもった人型ロボットとして描かれている。

「鉄腕アトム」の7つの威力の一つでもある「善悪を見分ける電子頭脳」その記憶容量は人間をはるかに超えた大容量であり、超えているという点でシンギュラリティととらえると「鉄腕アトム」は20世紀半ば（1952年）に21世紀半ば（百年先）の状況を予言しているような漫画なのかもしれない。

そこで、生成AIを電子頭脳に持つ「鉄腕アトム」が保険代理店（募集人）を始めたらどうなるかを考察してみた。

保険代理店（募集人）として「7つの威力」が発揮できる場面をいくつかあげてみると、

1. 善悪を見分けられる電子頭脳（記憶装置の記憶容量は15兆8000億ビット）

保険に関する業務・関連法令の知識、保険会社各社の商品特

徴を十分に熟知した上で、適切なリスク評価に基づく適正保険契約の設定、コンプライアンス順守した募集活動

2. 60か国語を話せる人工声帯とマッハ5のジェットエンジン
全世界を市場として、チャットポットを並行活用した対面
セールス活動

3. 聴力1千倍とマッハ5のジェットエンジン

保険事故発生を聞きつけ、現場立ち合いの上で適切な事故
査定実施

まさしく顧客本位で優績・優秀な保険代理店（募集人）が想像
される。

金融庁は、顧客本位の業務運営の徹底と健全な競争環境の実
現のため、保険業法改正を進めているが、保険募集人「鉄腕ア
トム」には無縁なものかも知れないと感ずる。

しかしながら、たとえば鎮火に12日間かかった大船渡山火事
対応でヘリコプターが海水を散水している映像を見て、10万馬
力とマッハ5の威力をもって即時解消可能といったリスク評価
するかもしれない。この仮説のとおり、「人工知能」はインプ
ットパラメタたる指示文「プロンプト」によりアウトプットが決
まり、その公平性・透明性・安全性の確保が課題とされている。

仮に自律自走する保険代理店ロボットが出てきたとして、そ
の時の保険業法がどのように改正されるのか興味津々である
（決して遠い将来のことではないかもしれない）。

保険業界の生成AIに対する取り組みに目が離せぬと思う次
第である。

ペンネーム（トムソンネットSBP：お茶の水博士）